【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和4年1月6日(2022.1.6)

【公表番号】特表2021-504761(P2021-504761A)
【公表日】令和3年2月15日(2021.2.15)
【年通号数】公開・登録公報2021-007
【出願番号】特願2020-529633(P2020-529633)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　5/26　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　5/20　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　5/28　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　5/30　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　5/26
Ｇ０２Ｂ　5/20
Ｇ０２Ｂ　5/28
Ｇ０２Ｂ　5/30

【手続補正書】
【提出日】令和3年11月26日(2021.11.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７０】
項目２０．多層光学反射体と反射体との間に配置された光ガイドを更に備える、項目１８に記載の光学キャビティ。
以下、更なる実施形態について例示する。
［１］
複数の光学繰り返し単位であって、各光学繰り返し単位が、総光学的厚さを有し、かつ複屈折ポリマー及び第２のポリマーを含み、かつ前記複屈折ポリマーの光学的厚さと前記光学繰り返し単位の前記総光学的厚さとの比として定義されるｆ比を有する、複数の光学繰り返し単位を備える、多層光学反射体であって、
前記複数の光学繰り返し単位が、４００ｎｍ～４８０ｎｍの非偏光垂直入射光の平均透過率が４０％より大きいように最小光学的厚さ及びｆ比を有し、
前記多層光学反射体上の所与の位置に関して、前記多層光学反射体が、非偏光垂直入射光の透過率が５０％に等しい波長で画定された左帯域端を有し、前記左帯域端が、５００ｎｍ以上であり、
前記多層光学反射体の任意の寸法にわたって、前記左帯域端が、前記寸法に沿って平均左帯域端の１０％以下の範囲内で変化し、
前記多層光学反射体が、緑色光及び赤色光の選択的反射体であり、
前記多層光学反射体が、１００マイクロメートルより薄い、多層光学反射体。
［２］
前記複屈折ポリマーが、ポリエチレンナフタレート又はポリエチレンナフタレートのコポリマーを含み、前記多層光学反射体が、８０マイクロメートルより薄い、［１］に記載の多層光学反射体。
［３］
前記ｆ比が、５０％とは異なる、［１］に記載の多層光学反射体。

［４］
前記複数の光学繰り返し単位が、５５０ｎｍ～８００ｎｍの非偏光垂直入射光の平均透過率が５％未満であるように構成されている、［１］に記載の多層光学反射体。
［５］
前記複数の光学繰り返し単位が、４００ｎｍ～４８０ｎｍの非偏光垂直入射光の平均透過率が５０％より大きいように最小光学的厚さ及びｆ比を有する、［１］に記載の多層光学反射体。
［６］
前記複屈折ポリマーが、ポリエチレンテレフタレート又はポリエチレンテレフタレートのコポリマーを含み、前記複数の光学繰り返し単位が、４００ｎｍ～４８０ｎｍの非偏光垂直入射光の平均透過率が８０％より大きいように最小光学的厚さ及びｆ比を有する、［１］に記載の多層光学反射体。
［７］
前記多層光学反射体の任意の寸法にわたって、前記左帯域端が、前記寸法に沿って平均左帯域端の５％以下の範囲内で変化する、［１］に記載の多層光学反射体。
［８］
青色光源であって、４２０ｎｍ～４８０ｎｍの最大放射波長を有する青色光源と、
ダウンコンバート材料であって、前記青色光源から放射された光を吸収し、かつ５５０～８００ｎｍの波長を有する光を再放射する、ダウンコンバート材料と、
請求項１～７のいずれか一項に記載の多層光学反射体であって、前記青色光源と前記ダウンコンバート材料との間の光路内に配置された、多層光学反射体と、
を備える、拡張面光源。
［９］
前記ダウンコンバート材料が、ダウンコンバートフィルム内にあり、前記ダウンコンバートフィルムが、前記多層光学反射体の面積の１０％以内である、［８］に記載の拡張面光源。
［１０］
前記ダウンコンバート材料が、カラーフィルタアレイ内にある、［８］に記載の拡張面光源。